

機 械

1. 評価対象企業（19社）

アマダ、ナブテスコ、SMC、小松製作所、住友重機械工業、日立建機、クボタ、荏原製作所、ダイキン工業、栗田工業、ダイフク（新規）、日本精工、THK、安川電機、マキタ、ファナック、三菱重工業、川崎重工業、IHI

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目（注）数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	2	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	3	25
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	3	11
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	2	16
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	2	18
計		12	100

（注）具体的な評価項目および配点は57頁参照

(2) 評価実施アナリストは27名（20社）である。（58頁参照）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」（56頁）参照）

① 当業種は、2019年度の優良企業選定を休止し、本年度再開した。従って、本年度において比較参照する過去の数値は2018年度の数値（以下「前回」という。）である。本年度は、評価項目の整理・統合化を目的として、評価分野全般において、内容変更、配点変更（内容変更を含む）または項目削除を行い、評価を実施した。このため、前回と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は73.6点（前回72.0点）、総合評価点の標準偏差は10.6点（前回12.2点）であった。

② 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点/配点（以下省略））を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が73%（前回同率）、**説明会等**が77%（前回74%）、**フェア・ディスクロージャー**が74%（前回73%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が74%（前回69%）、**自主的な情報開示**が69%（前回68%）となった。

③ 評価項目について見ると、全12項目中、次の2項目が平均得点率で80%以上となった。

(a) 「四半期ごとに業績動向に関する説明会（電話会議を含む）を開催していますか」（平均得点率89%〔前回80%〕）（得点率（評価点/配点（以下省略））：100%17社・0%2社）

(b) 「経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか（会社にとって都合が悪い情報、メディアへの対応を含む）」（平均得点率87%〔前回90%〕）（得点率：90%台6社・80%台12社・70%台1社）

④ 一方、前回平均得点率が50%台と低水準であった次の3項目は、本年度改善が見られたものの、他の項目に比べると低水準となっている。特に、フェア・ディスクロージャーの中項目の「ウェブサイトにおける情報提供」の2項目((c) (d))は、一部の企業に改善が見られるものの、前回に続き0点評価の企業が約半数あり、これらの企業において今後の改善の努力が強く望まれる。

(c) 「決算説明会等の内容はウェブサイト動画または音声で視聴できますか」(平均得点率63%〔前回55%〕)
(得点率:100%12社・0%7社)

(d) 「決算説明会等での質疑応答の内容がウェブサイトでも分かるようになっていますか」(平均得点率63%〔前回50%〕)(得点率:100%12社・0%7社)

(e) 「会社主催の工場見学、事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、ESG説明会等を実施し、かつその内容が充実していますか」(平均得点率65%〔前回59%〕)(得点率:30%台1社・40%台2社・50%台5社・60%台2社・70%台4社・80%台5社)

⑤ 非財務情報関連の2項目(コーポレート・ガバナンス関連、自主的情報開示の中の各1項目)については、次のとおりとなった。

(f) 「コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、社外取締役、政策保有株式、役員報酬の算定方式、親子上場等」(平均得点率76%〔前回68%〕)(得点率:60%台2社・70%台11社・80%台6社)

(g) 「非財務情報(統合報告書、CSRレポート、ESG情報等)の開示に積極的に取り組んでいますか」(平均得点率72%)(得点率:50%台3社・60%台5社・70%台5社・80%台6社)

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 **ダイキン工業**(ディスクロージャー優良企業〔2回目〕、総合評価点89.5点〔前回比+3.8点〕、昨年度第2位)

① 同社は、経営陣のIR姿勢等(得点率(以下省略)91%)、説明会等(91%)が第1位、フェア・ディスクロージャー(95%)、自主的情報開示(87%)が同得点第1位、コーポレート・ガバナンス関連が第3位(83%)となった。

② 経営陣のIR姿勢等においては、「会社主催の説明会に社長または会長が出席し、その内容が充実していること」および「IR部門が、アクセスの容易性、ディスカッションの有益性、情報の集積度等を含め、十分に機能していること」が共に最も高い評価となった。これらに関し、CEOが自らの言葉で経営方針や課題について言及していることを評価する声に加え、IRチーム(東京・大阪)の機能を評価する声が寄せられた。

③ 説明会等においては、「決算説明会およびインタビューにおける会社側の説明(質疑応答を含む)が十分であること」が最も高い評価となった。これに関し、質問に対して丁寧に答える姿勢を評価する声が寄せられた。また、説明資料等において「投資家が求める情報(業界動向、事業別損益、中期の経営戦略、為替等会社計画の前提、会計変更の影響)が十分に開示されていること」も高く評価された。これに関し、事業の増減益を含め内容の充実を評価する声が寄せられた。なお、「四半期ごとに業績動向に関する説明会(電話会議を含む)を開催していること」は満点評価となった。

④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「決算説明会等の内容がウェブサイト動画または音声で視聴できること」および「決算説明会等での質疑応答の内容がウェブサイトでも分かるようになっていること」が共に満点評価となった。また、「経営陣およびIR部門が情報開示に際し、会社にとって都合が悪い情報、メディアへの対応を含め、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」も高く評価された。

⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、「中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていること、また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること」が最も高い評価となった。これに関し、経営陣の中計に対するこだわりを感じるとの声が寄せられた。なお、「コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢(例えば、社外取締役、政策保有株式、役員報酬の算定方式、親子上場等)を十分に説明していること」については、第7位(トップと7ポイント差)にとどまった。

- ⑥ 自主的情報開示においては、「会社主催の工場見学、事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、ESG 説明会等を実施し、かつその内容が充実していること」が最も高い評価となった。また、「非財務情報（統合報告書、CSR レポート、ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」も高く評価された。これらに関し、サステナビリティ説明会、中国空調事業説明会や、温室効果ガス削減への取組姿勢とその開示を評価する声が寄せられた。
- ⑦ 以上に加え、2021 年 3 月期実行計画に関し、コロナウイルスの影響について、4 パターンを想定し対策を具体化した説明や、中長期視点を評価する声が寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 小松製作所（総合評価点 84.5 点〔前回比－7.2 点〕、前回第 1 位）

- ① 同社は、自主的情報開示が同得点第 1 位（87%）、コーポレート・ガバナンス関連が第 2 位（83%）、説明会等（86%）、フェア・ディスクロージャー（95%）が同得点第 3 位、経営陣の IR 姿勢等が第 6 位（79%）となった。前回に比べ、全ての分野の得点率が低下し、総合評価点の低下（低下幅第 1 位）につながった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「会社主催の説明会に社長または会長が出席し、その内容が充実していること」および「IR 部門が、アクセスの容易性、ディスカッションの有益性、情報の集積度等を含め、十分に機能していること」が、各々トップと 12～13 ポイント差となった。これらに関し、従来に比べ経営陣の応答の内容が曖昧との声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、説明資料等において「投資家が求める情報（業界動向、事業別損益、中期の経営戦略、為替等会社計画の前提、会計変更の影響）が十分に開示されていること」が最も高く評価された。これに関し、説明会資料が充実し、完成度が高いとの声が複数寄せられた。また、「四半期ごとに業績動向に関する説明会（電話会議を含む）を開催していること」が満点評価となった。一方「決算説明会およびインタビューにおける会社側の説明（質疑応答を含む）が十分であること」は他社と共に第 6 位（トップと 15 ポイント差）にとどまった。これに関し、定性的な部分の説明が少なくなったとの声が寄せられた。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、会社にとって都合が悪い情報、メディアへの対応を含め、不公平や混乱が生じないように十分な注意を払っていること」が高く評価されたことに加え、「決算説明会等の内容がウェブサイトで動画または音声で視聴できること」および「決算説明会等での質疑応答の内容がウェブサイトでも分かるようになっていくこと」が共に満点評価となった。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、「コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢（例えば、社外取締役、政策保有株式、役員報酬の算定方式、親子上場等）を十分に説明していること」が高い評価となった。加えて、「中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていること、また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること」も評価された。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「非財務情報（統合報告書、CSR レポート、ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が最も高い評価となった。また、「会社主催の工場見学、事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、ESG 説明会等を実施し、かつその内容が充実していること」も評価された。

第 3 位 安川電機（総合評価点 81.9 点〔前回比－1.0 点〕、前回第 3 位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が第 3 位（83%）、説明会等が同得点第 5 位（84%）、自主的情報開示が同得点第 7 位（74%）、コーポレート・ガバナンス関連が第 8 位（78%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 9 位（93%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「会社主催の説明会に社長または会長が出席し、その内容が充実していること」が高い評価となった。これに関し、市場環境、同社の状況、収益動向や課題について社長が語ることを評価する声が寄せられた。また、「IR 部門が、アクセスの容易性、ディスカッションの有益性、情報の集積度等を含め、十分に機能していること」も評価された。
- ③ 説明会等においては、説明資料等において「投資家が求める情報（業界動向、事業別損益、中期の経営戦略、為替等会社計画の前提、会計変更の影響）が十分に開示されていること」および「決算説明会およびインタビューにおける会社側の説明（質疑応答を含む）が十分であること」が共に評価された。なお、「四半期ごとに業

績動向に関する説明会（電話会議を含む）を開催していること」は満点評価となった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「決算説明会等の内容がウェブサイト動画または音声で視聴できること」および「決算説明会等での質疑応答の内容がウェブサイトでも分かるようになっていること」が共に満点評価となった。なお、この分野全体では同得点第9位となった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていること、また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること」については他社と共に第5位（トップと7ポイント差）となった。なお、この分野全体では、第8位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「会社主催の工場見学、事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、ESG説明会等を実施し、かつその内容が充実していること」が他社とともに第7位（トップと12ポイント差）となった。これに関し、中期経営計画説明会、工場見学会を評価する声が寄せられた。また、「非財務情報（統合報告書、CSRレポート、ESG情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が第8位（トップと15ポイント差）となった。

以 上

2020年度 ディスクロージャ-評価比較総括表 (機械)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャ-		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点 (配点30点)	順位	評価点 (配点25点)	順位	評価点 (配点11点)	順位	評価点 (配点16点)	順位	評価点 (配点18点)	順位	
1	6367 ダイキン工業	89.5	27.4	1	22.8	1	10.5	1	13.2	3	15.6	1	2
2	6301 小松製作所	84.5	23.7	6	21.5	3	10.4	3	13.3	2	15.6	1	1
3	6506 安川電機	81.9	24.9	3	21.0	5	10.2	9	12.5	8	13.3	7	3
4	6370 栗田工業	81.1	25.0	2	21.5	3	10.4	3	12.7	5	11.5	12	5
5	6305 日立建機	80.8	23.1	7	20.6	8	10.4	3	12.3	10	14.4	6	4
6	6326 クボタ	80.7	24.5	4	21.6	2	7.6	11	12.1	12	14.9	3	7
7	6268 ナブテスコ	79.6	22.1	11	18.9	14	10.5	1	13.4	1	14.7	5	11
8	7011 三菱重工業	78.3	22.4	9	20.0	10	10.2	9	12.4	9	13.3	7	6
9	6471 日本精工	78.1	24.1	5	20.7	7	7.5	12	12.6	7	13.2	9	12
10	6361 荏原製作所	77.2	21.8	12	20.2	9	7.5	12	12.8	4	14.9	3	13
11	7013 IHI	76.9	21.7	13	19.9	11	10.3	6	12.7	5	12.3	10	8
12	7012 川崎重工業	73.6	20.0	14	19.1	13	10.3	6	11.9	13	12.3	10	9
13	6302 住友重機械工業	71.5	19.6	15	18.8	15	10.3	6	11.5	14	11.3	13	10
14	6113 アマダ	71.0	22.2	10	21.0	5	4.5	15	12.3	10	11.0	14	14
15	6383 ダイフク	68.0	23.0	8	19.3	12	3.8	19	11.4	15	10.5	15	未実施
16	6481 THK	60.4	19.3	17	13.2	18	7.4	14	11.0	16	9.5	17	16
17	6586 マキタ	59.6	19.6	15	18.3	16	4.2	16	8.7	18	8.8	18	17
18	6954 ファナック	53.8	14.1	19	16.1	17	4.2	16	9.5	17	9.9	16	18
19	6273 SMC	51.1	18.1	18	12.6	19	4.0	18	8.4	19	8.0	19	20
	評価対象企業評価平均点	73.56	21.93		19.32		8.11		11.83		12.37		

2020年度評価項目および配点（機械）
【評価対象期間：2019年7月～2020年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（30点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・ 会社主催の説明会に社長または会長が出席し、その内容は充実していますか。	15
(2)IR部門の機能	
・ IR部門が十分に機能していますか。（アクセスの容易性、ディスカッションの有益性、情報の集積度等）	15
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（25点）	配点
(1)説明資料等（短信およびその付属資料・説明会資料）における開示	
・ 投資家が求める情報（業界動向、事業別損益、中期の経営戦略、為替等会社計画の前提、会計変更の影響）が十分に開示されていますか。	10
(2)説明会、インタビューにおける開示	
・ 決算説明会およびインタビューにおける会社側の説明（質疑応答を含む）は十分ですか。	10
(3)四半期情報開示	
・ 四半期ごとに業績動向に関する説明会（電話会議を含む）を開催していますか。 [開催あり：5点 開催なし：0点]	5
3. フェア・ディスクロージャー（11点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・ 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。（会社にとって都合が悪い情報、メディアへの対応を含む）	5
(2)ウェブサイトにおける情報提供	
①決算説明会等の内容はウェブサイトで動画または音声で視聴できますか。	3
②決算説明会等での質疑応答の内容がウェブサイトでも分かるようになっていますか。	3
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示（16点）	配点
(1)コーポレート・ガバナンスに関する開示	
・ コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、社外取締役、政策保有株式、役員報酬の算定方式、親子上場等。	8
(2)目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等の開示	
・ 中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。	8
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（18点）	配点
①会社主催の工場見学、事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、ESG説明会等を実施し、かつその内容が充実していますか。[過去1年間を目安に評価]	8
②非財務情報（統合報告書、CSRレポート、ESG情報等）の開示に積極的に取り組んでいますか。	10

機械専門部会委員

部会長	齋藤 克史	野村証券
部会長代理	田井 宏介	大和証券
	井原 芳直	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	大内 卓	SMBC 日興証券
	黒田 真路	キャピタル・リサーチ&アドバイザー
	佐野 友彦	JPモルガン証券
	宮城 大和	みずほ証券

評価実施アナリスト（27名）

浅川 裕之	パインブリッジ・インベストメンツ	蔣 茜蕾	モルガン・スタンレー MUFG 証券
猪股 彩香	大和証券	田井 宏介	大和証券
井原 芳直	モルガン・スタンレー MUFG 証券	田中 英太郎	S O M P O アセットマネジメント
大内 卓	SMBC 日興証券	谷林 正行	QUICK
大平 光行	東海東京調査センター	田村 真一	極東証券経済研究所
岡田 真一	三菱UFJ 信託銀行	野口 昌泰	野村証券
蒲生 宗央	野村アセットマネジメント	柗 宏二	QUICK
黒田 真路	キャピタル・リサーチ&アドバイザー	堀井 章	ニッセイアセットマネジメント
児玉 芳明	明治安田アセットマネジメント	グレアム マクナルト	シティグループ証券
齋藤 克史	野村証券	道脇 祐介	三菱UFJ 信託銀行
佐々木 翼	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	宮城 大和	みずほ証券
佐野 友彦	JPモルガン証券	若栄 正宣	みずほ証券
清水 俊宏	アセットマネジメントOne	渡辺 洋一郎	水戸証券
下森 浩	三菱UFJ 信託銀行		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。